



再生路盤材 鉄道輸送スムーズに

日本アスファルト合材協会(日合協、今泉保彦会長)は、J R貨物のコンテナを

積み込みから荷下ろしまで 日合協が実証、公的支援要望へ

利用した再生骨材や再生路盤材の輸送を実証した。8月26日にサンドテクノ市川合材センター(千葉県市川市)から再生路盤材5トを富山市の建設会社・ほくり

くエココンに輸送。コンテナへの積み込みや輸送、荷下ろしまで問題なく行った。鉄道コンテナを使った輸送は、資源循環を実現し県域を越えた移送を推進する

サンドテクノ市川合材センターでフレコンバッグに再生路盤材を封入、ほくりくエココンでの荷下ろし作業(いずれも日合協提供)

ミナル駅で富山貨物ターミナルに乗り換えた。同28日に富山貨物ターミナル駅の日本通運のコンテナ車両に積載し、ほくりくエココンで荷下ろしした。

テナ1基で運搬。11日に三共建設アスファルト合材工場に到着し荷下ろしする。アスファルト殻(アスガラ)、コンクリート殻(コンガラ)の需給バランスには顕著な地域差があり、輸送費支援制度の整備が課題となっている。都市部の舗装工事や再開発で多くのアスガラやコンガラが発生し、再生骨材や再生路盤材が過剰となっている一方、

9日には第2弾として砂町アスコン東京合材工場の再生骨材を三共建設アスファルト合材工場(北九州市)に運ぶ。再生骨材5トをフレコンバッグに積み、コン

地方部などでは発生材が不足し再生資材の安定確保が困難となっている。需給ギャップの是正に向け中長距離輸送を前提とした費用支援や流通体制の整備が求められる。日合協は「公的な支援を求めていく」と話す。

